

令和3年度「地盤工学会誌」優秀賞受賞者の決定

令和3年度「地盤工学会誌」優秀賞受賞者が、令和4年3月17日の理事会において下記のとおり決定いたしました。

【「地盤工学会誌」年間最優秀賞】

受賞業績名／業績発表文献	受賞者名
「フレッシュャーズのための『続・土質力学』 第5回 大胆に強度逆算でいい？地すべり斜面安定計算」／2021年12月号掲載（講座）	杉本 宏之（(国研)土木研究所）
<p>●授賞理由：本記事は、地すべり対策の実務で用いられる斜面安定解析において、単純なモデル化と大胆なパラメータ設定が用いられる背景にある、地中のパラメータを正確に決める難しさやその問題点を補完する仕組みを、実際の写真や親しみやすいイラストを用いながら、わかりやすく解説されています。基準書を読み始めたばかりの若手技術者や新たな分野に取り組む中堅技術者に寄り添った、実務で取り扱う発展的な内容の理解度を高める講座となっており、多くの読者に支持されました。</p>	

【「地盤工学会誌」優秀賞】

「大学課程「地盤工学」にかかわる最近のいくつかの課題」／2021年5月号掲載（論説）	若井 明彦（群馬大学）
<p>●授賞理由：本記事は、コロナ禍がもたらしたオンライン授業の功罪、大学課程の地盤工学系科目の開講実態、教育プログラムの国際的相互認証の普及状況と課題など、産業界の読者に大学教育の現状の一端に触れていただく資料として、コロナ関連の最新の教育状況からJABEE制度の実態についてわかりやすい言葉で事例を交えながら紹介されています。世界的な技術競争の激化やコロナ禍といった背景のもと、産学が技術者教育を連携実践する意義・気運が高まっており、多くの読者の関心を得て支持されました。</p>	
「宇宙探査と地盤工学 第4章 レゴリスの土質力学」／2021年6月号掲載（講座）	松島 亘志（筑波大学） 小林 泰三（立命館大学）
<p>●授賞理由：本記事は、「レゴリス」と呼ばれる天体の表層を覆う土の土質力学的特性として、土粒子密度や粒度分布等の粒子特性、コア採取等による堆積特性、圧縮性やせん断強度等の力学特性といった、月面から回収されたサンプルによって得られた知見から、隕石の衝突回数に関係した粒度分布等、サンプルのない天体の特性予測の試みまで、天体における土質力学について、様々な土質試験の例を用いながら幅広く紹介されています。地盤工学の守備範囲の広さを改めて感じさせる講座であり、多くの読者に支持されました。</p>	

（注：敬称略，受賞者の所属は掲載当時）